



岸壁ゾーンの建造物



現状(落ち着いた山の色彩と明るい岸壁のまちなみ)



中程度の明るさ(明度 6.5 相当)とすることで現状の景観の良さを生かし、近くで見た場合にも威圧感がない。



中腹にモンタージュで表した陸屋根ビルについて外壁を明るくしすぎると(明度 9.0 相当)建物が浮かび上がる。



白い斜張橋の主塔がシンボルになっている例

③ 港・大規模漁港

色彩的特徴

海に接する岸壁ゾーンは、直線的護岸整備や近代的な建築物に見られるように、海に面して人工美の形成されたゾーンです。現状は明るい施設や設備が多く、それが良好な印象につながっています。

山側の民家は石州赤瓦が山々と調和し、岸壁の近代的印象とは対照的な落ち着いた景観を形成しています。

色彩選定のポイント

現在の色彩的特徴を維持し、岸壁のゾーンは明るく、山沿いでは落ち着いた印象となるように配慮することが望まれます。

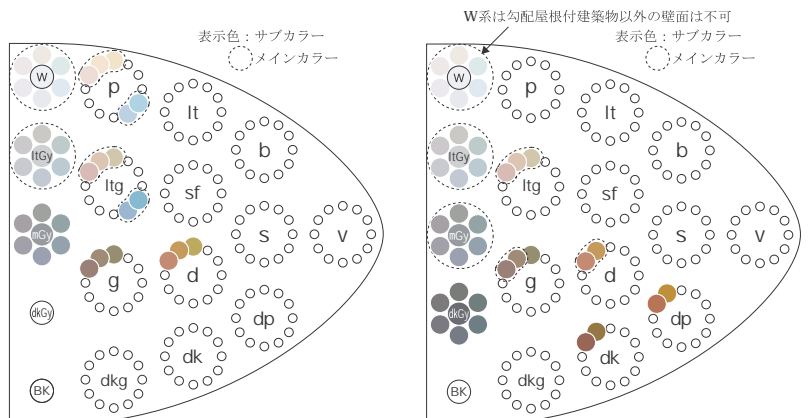
勾配屋根の建築物は、明るい壁面でも落ち着いた山並みの印象を壊すことはありませんが、陸屋根の建築物については、背景の山腹とコントラストが強すぎると山並み景観の落ち着いた雰囲気を壊す場合があります。

この景観タイプは、様々な形状の建築物や設備が混在する地域です。形状と色彩との関係にも気を配ることが必要となります。

メインカラー／サブカラー選定の考え方

メインカラーには、岸壁ゾーンは明るい色を、山沿いは落ち着いた色を選定しましょう。ただし、山沿いであっても勾配屋根を葺いた建築物は明るい色も許容範囲に入ります。

サブカラーについては色彩選定のポイントに沿ってメインカラーの特徴を生かす色を選定しましょう。



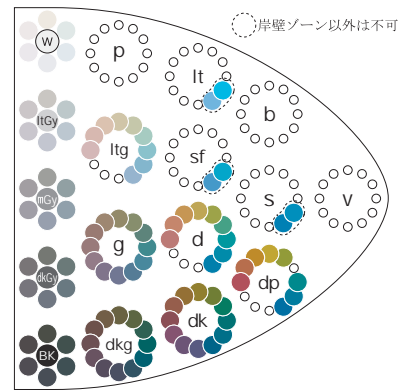
岸壁ゾーン(メインカラー／サブカラー)

山沿いの地域(メインカラー／サブカラー)

リブカラー

ボリュームのある線状の構造物では、極端に暗い色は近景で重々しく威圧的な感じが強くなるので避けた方が良いでしょう。

下の写真は推奨色による橋梁のカラーバリエーション事例です。推奨範囲の色を用いることで、周辺景観を損なうことなく、コンセプトに応じた構造物の演出が可能です。検討資料としてご参照ください。



港・大規模漁港<リブカラー>
橋梁などボリュームのある線状の構造物では dkGy、BK、dkg は避ける

現状



橋:ダークレッド 手前建物:ホワイト系
ラック類:ダルパーブリッシュブルー



橋:ダルブルー 手前建物:ホワイト系
ラック類:ダルパーブリッシュブルー



橋:ダルブルーグリーン 手前建物:ホワイト系
ラック類:ダルパーブリッシュブルー



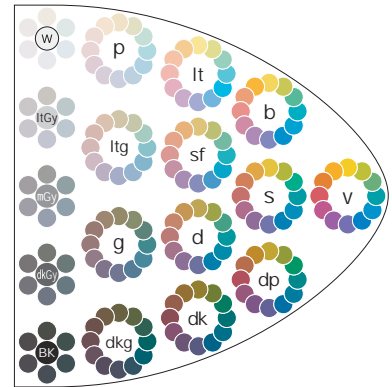
橋:ホワイト 手前建物:ホワイト系
ラック類:ダルパーブリッシュブルー



橋:ダルオレンジ 手前建物:ホワイト系
ラック類:ダルパーブリッシュブルー



港環境における橋のカラーシミュレーション

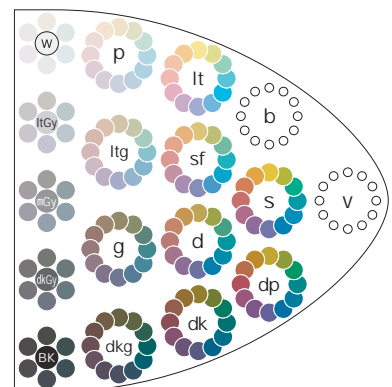


岸壁ゾーン<アクセントカラー>

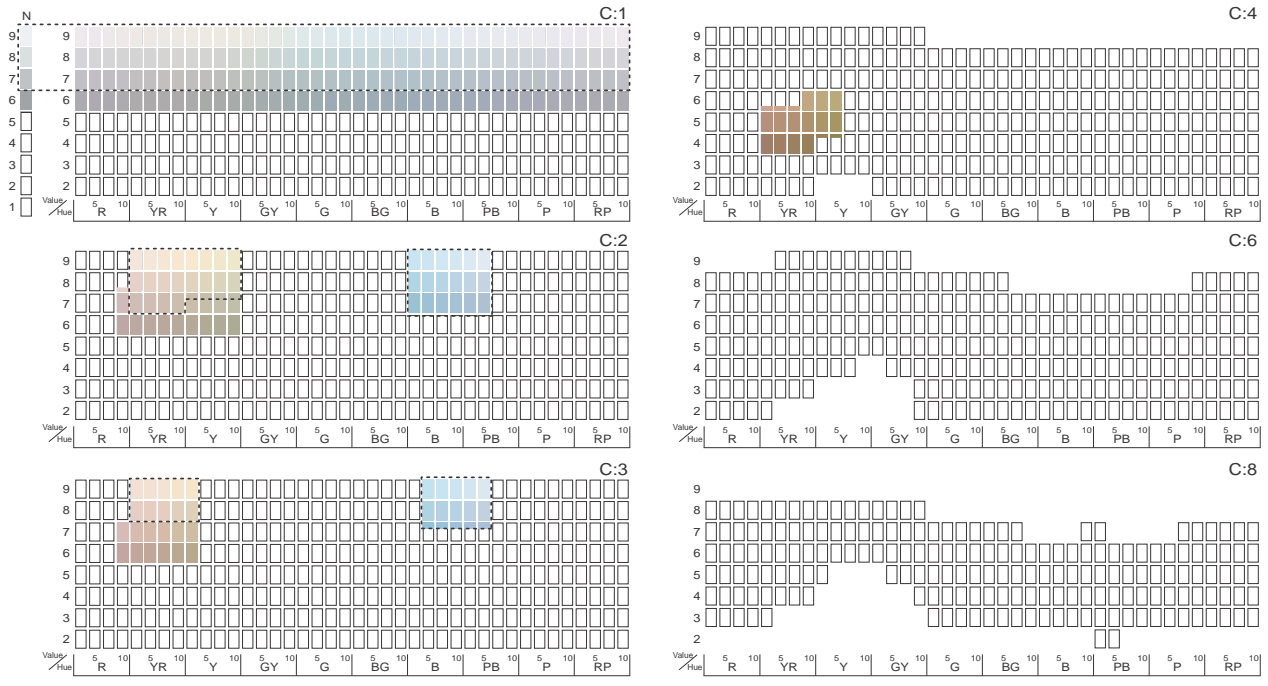
アクセントカラー

岸壁ゾーンでは蛍光色は避けることとします。

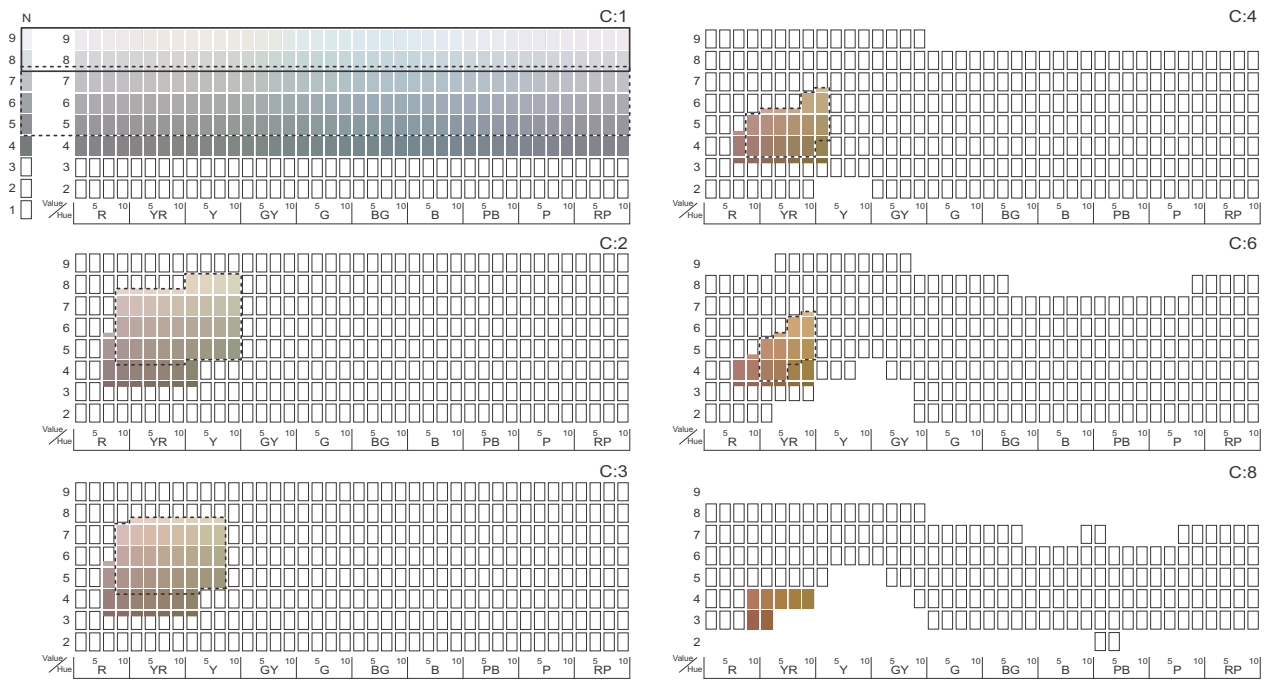
山沿いの地域は蛍光色およびビビッドトーン、ブライトトーンの色は避けてください。



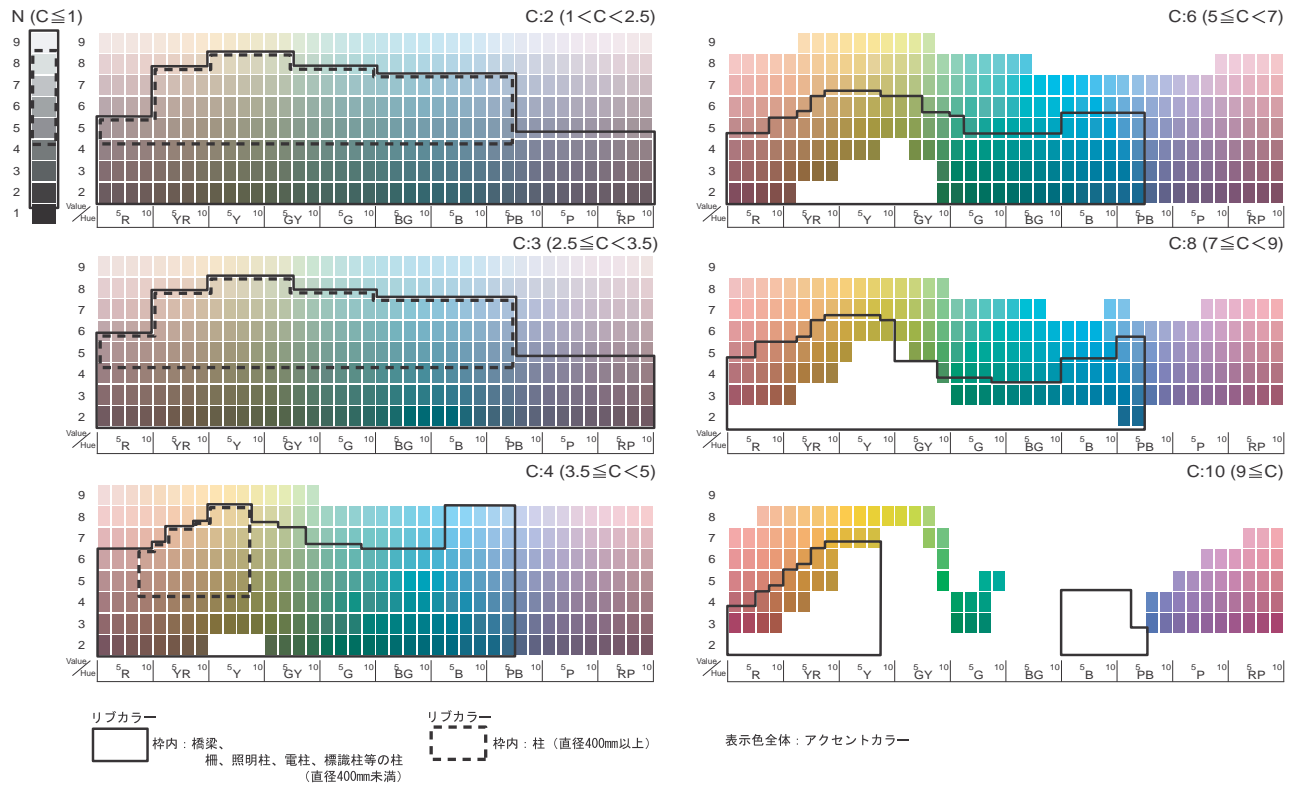
山沿いの地域<アクセントカラー>



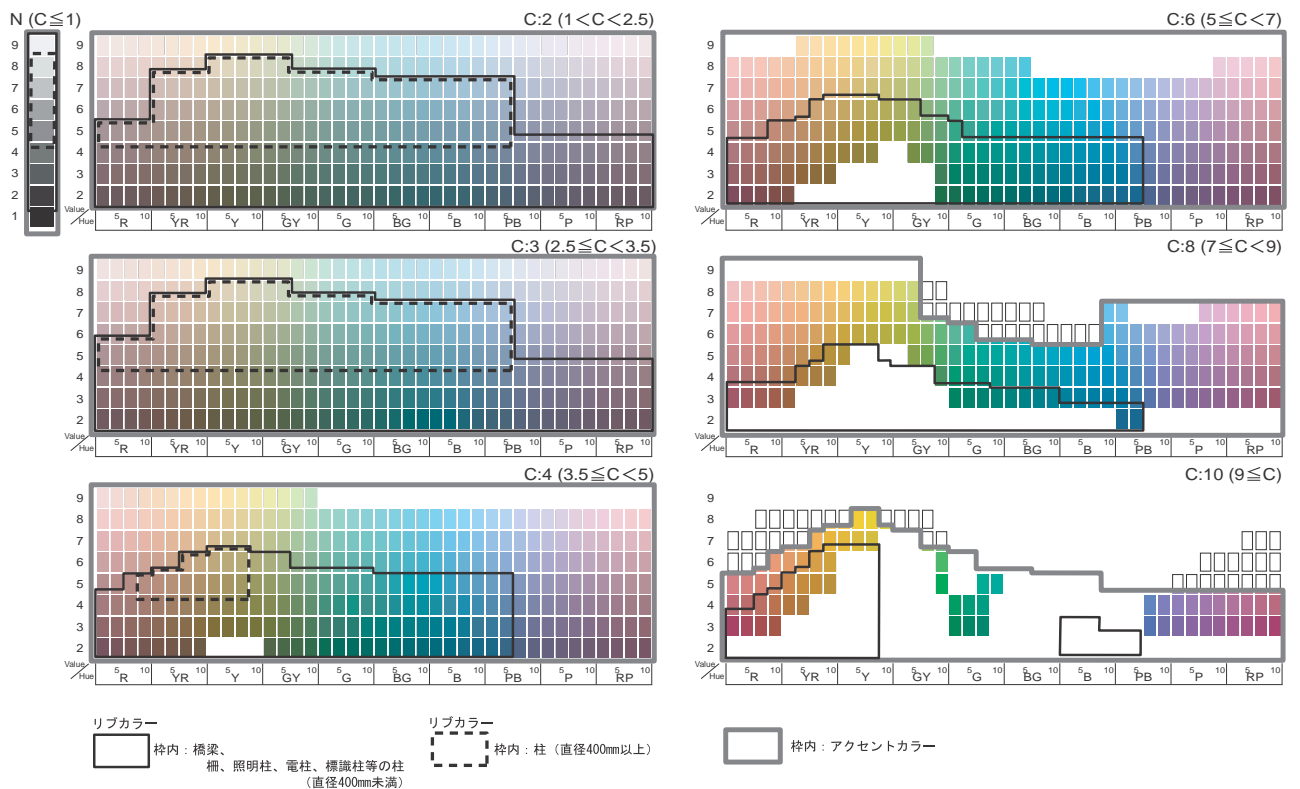
港・大規模漁港 岸壁ゾーン(メインカラー/サブカラー)



港・大規模漁港 山沿いの地域(メインカラー/サブカラー)



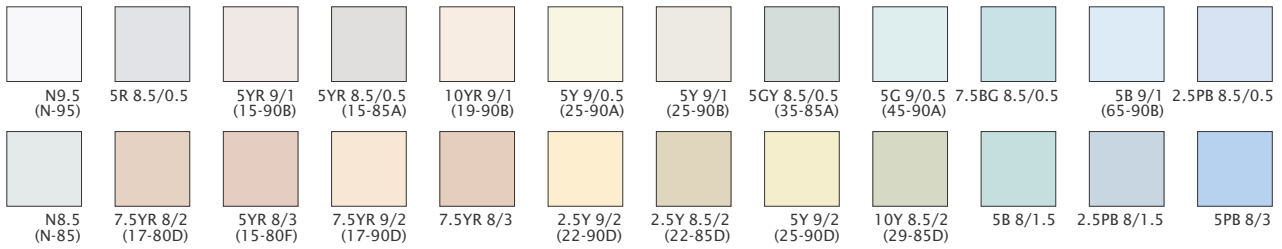
港・大規模漁港 岸壁ゾーン<リブカラー／アクセントカラー>



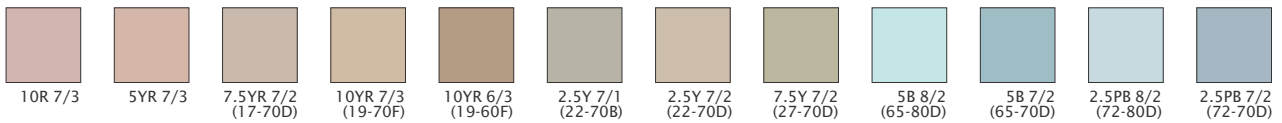
港・大規模漁港 山沿いの地域<リブカラー／アクセントカラー>

カラーパレット 港・大規模漁港<岸壁ゾーン>

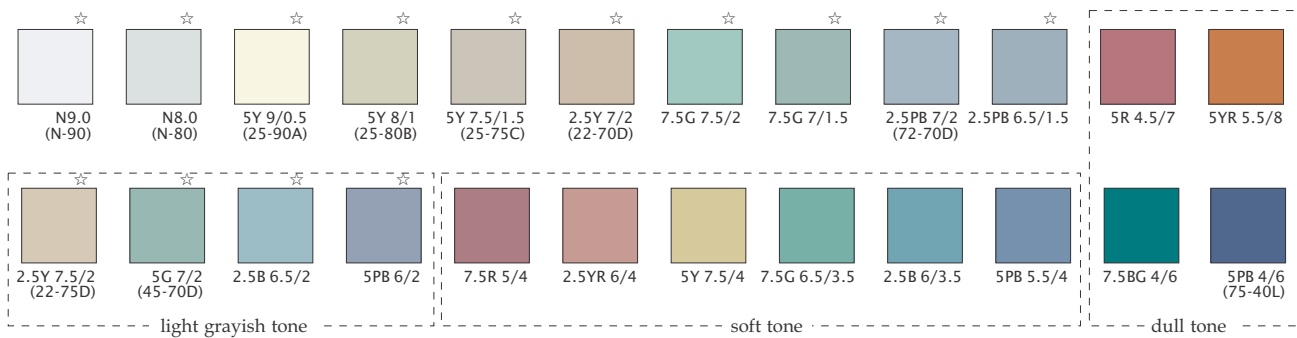
メインカラー



サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)

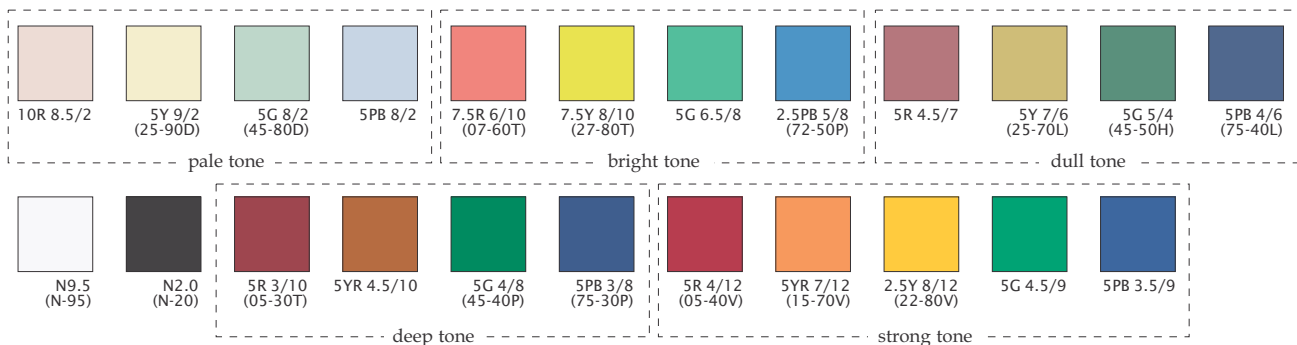


リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

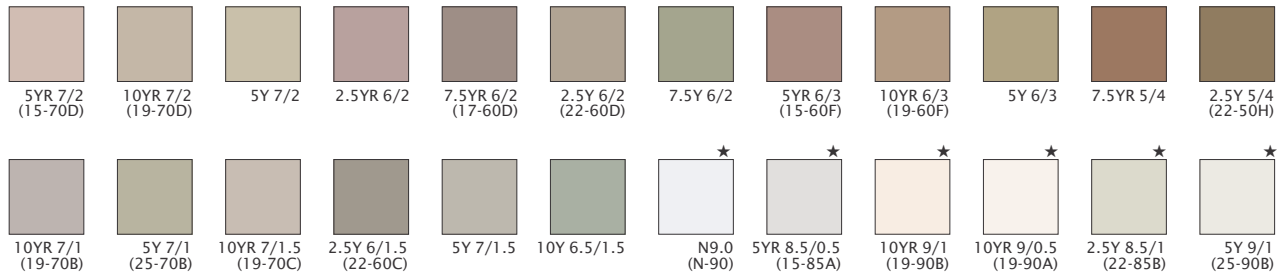
アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)



プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。

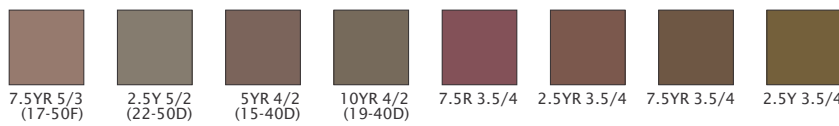
カラーパレット 港・大規模漁港<山沿いゾーン>

メインカラー

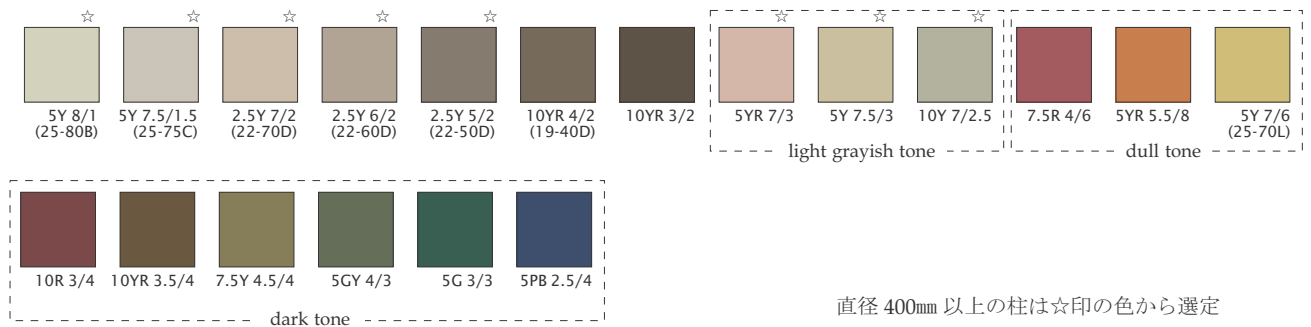


★印：勾配屋根の建築物のみに許容されるメインカラー

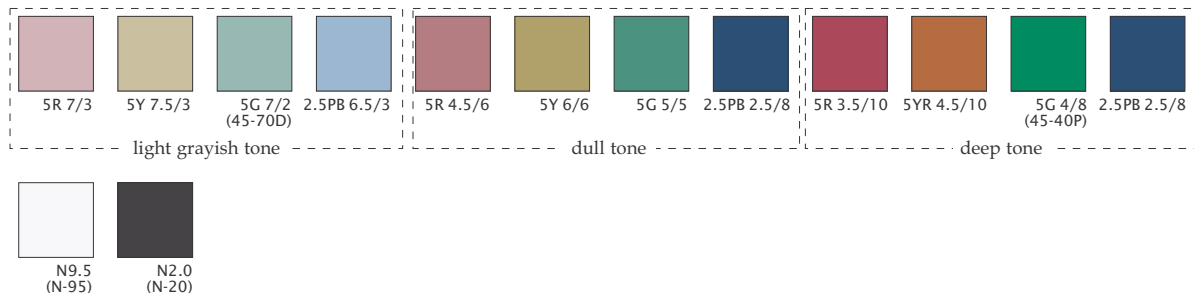
サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)



リブカラー



アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)



プロセス印刷のため、マンセル記号が示す色とは多少異なります。



海の色・山の色に囲まれた漁村



展望地から見た漁村の屋根



現状



陸屋根ビルの明度を落とし赤瓦に統一したシミュレーション



冬場に寒い印象になりがちな岸壁ゾーン(現状)



建物の妻側側面に、やや彩度の高い色を使用することで、活動的な雰囲気を出した2つの事例。手前のラック類もブルー系に赤みを加えて温かみのある青に微調整している。

④ 小規模漁港・漁村

色彩的特徴

山の色、海の色など自然景観の色が主要な背景となります。山に囲まれた内海は、外海に比べて緑っぽい色をしています。

近接した山の上から漁港を望むことのできる展望地がある地域も少なくありません。そのようなケースでは、民家の屋根の色も景観の印象に多大な影響を与えます。

石州瓦の赤瓦で統一された地域は、良好な印象を受けます。

色彩選定のポイント

自然景観の落ち着いた印象を壊さないように配慮することが必要ですが、冬場は暗く単調になりがちなので、極端に暗い色や寒さが強調される配色は避けましょう。

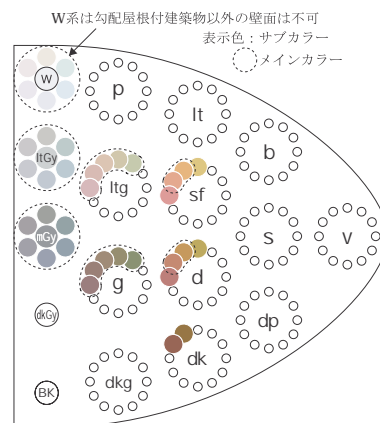
メインカラー／サブカラー選定の考え方

落ち着いた印象を与えるトーンの中から選定します。勾配屋根のある建物についてはホワイト系の壁面を用いても背景の自然景観になじみ、また同時に明るい雰囲気も演出できます。

自然景観に融和する色として取り上げてきた色相の範囲はオレンジ系（ベージュやブラウン）が中心ですが、冬場の景観を考慮すると、やや色相の範囲に広がりを持たせた方がよいでしょう。

島根県の漁村には屋根に赤瓦を使用した家が多く、寒々とする冬場に温かみを加えています。屋根が視野に入らない近景や屋根が雪で覆われた景観などで、壁面が単調に感じたり寒々しい印象を与える場合には、サブカラーで調整します。

商業施設ではアクセントカラーで賑わいを演出しますが、アクセントカラーがそぐわない漁村住宅などには、サブカラーの使用が適しています。



小規模漁港(メインカラー／サブカラー)

リブカラー

多くのリブカラーが出現する景観では、その組み合わせによって様々な印象の景観が生まれます。細い柱は無彩色や低彩度の色彩とし、橋はしっかりとコンセプトを持って背景に対する関係を決めると色の絞込みはスムーズに行えます。

現状



橋：ダークレッド
照明柱など：ブラウン系



橋：ライトブラウン
照明柱など：ブラウン系



橋：ホワイト
照明柱など：ホワイト系



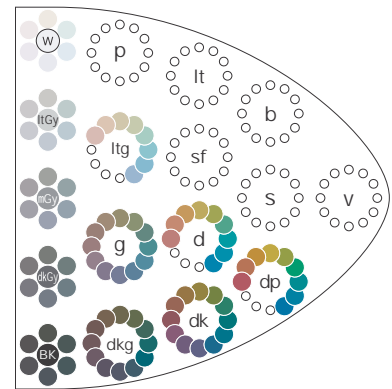
橋：ダルブルー
照明柱など：ホワイト系



橋：ダルブルーグリーン
照明柱など：ホワイト系



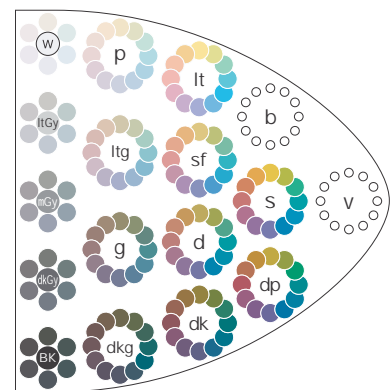
推奨色による橋梁のカラーバリエーション事例
(細い柱・柵・照明柱)についても明るさの違う無彩色系を組み合わせている



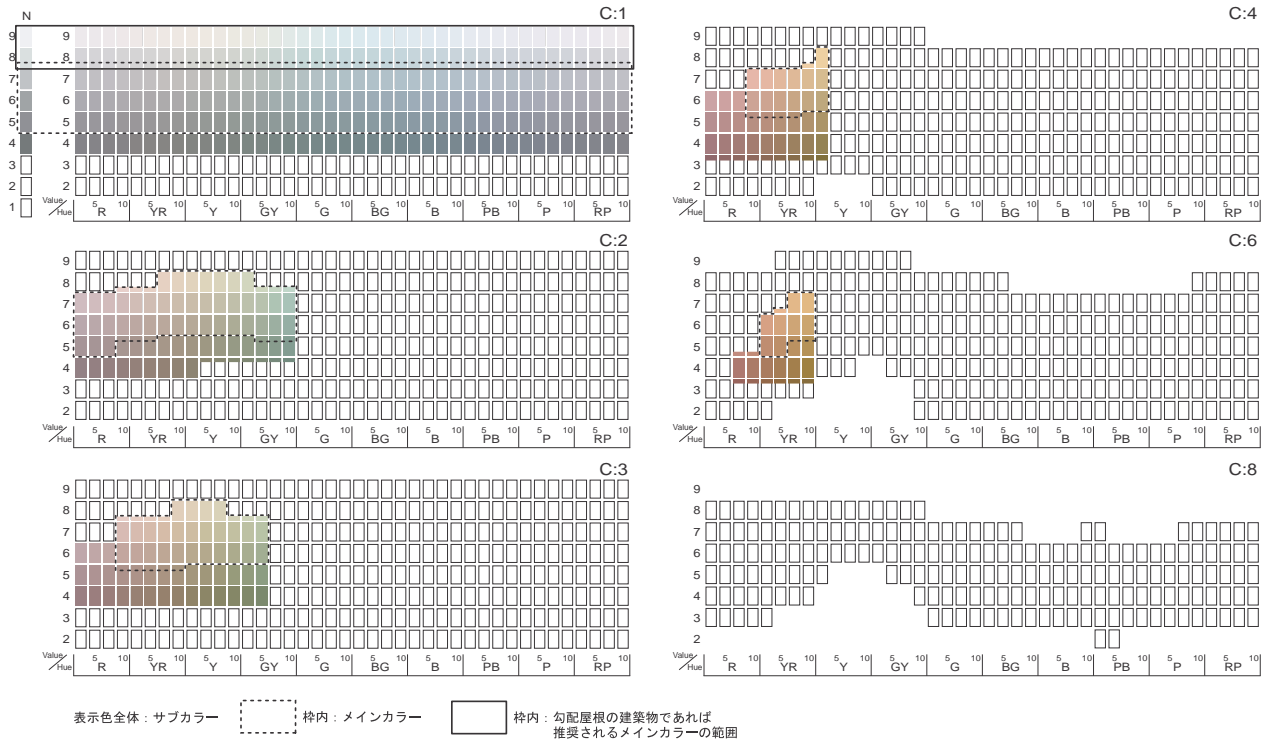
小規模漁港(リブカラー)

アクセントカラー

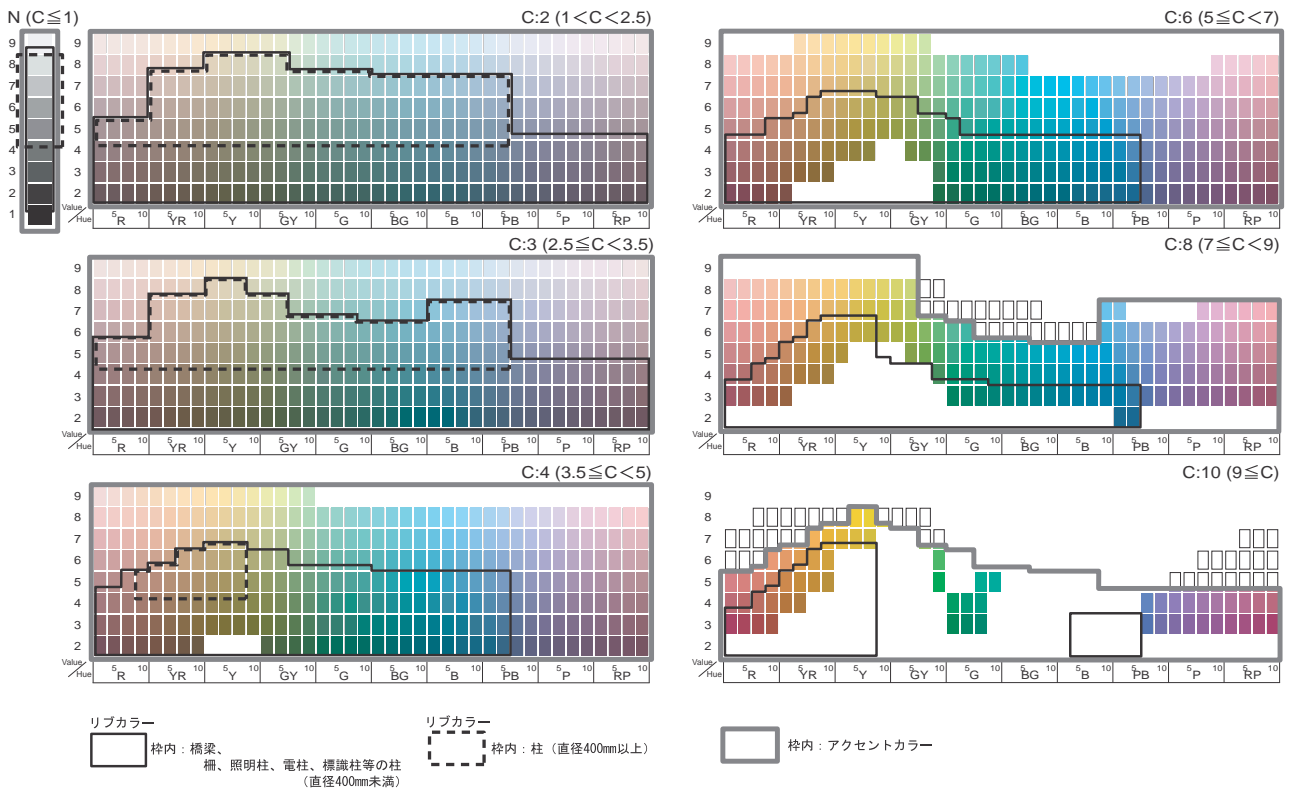
蛍光色およびビビッドトーンの色は避けてください。



小規模漁港(アクセントカラー)



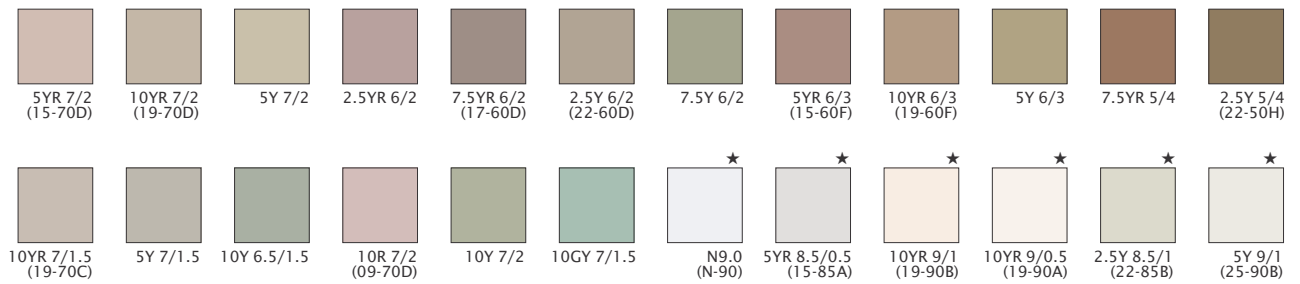
小規模漁港・漁村〈メインカラー／サブカラー〉



小規模漁港・漁村〈リップカラー〉

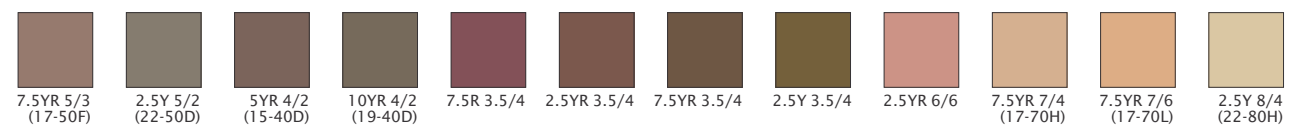
カラーパレット 小規模漁港・漁村

メインカラー

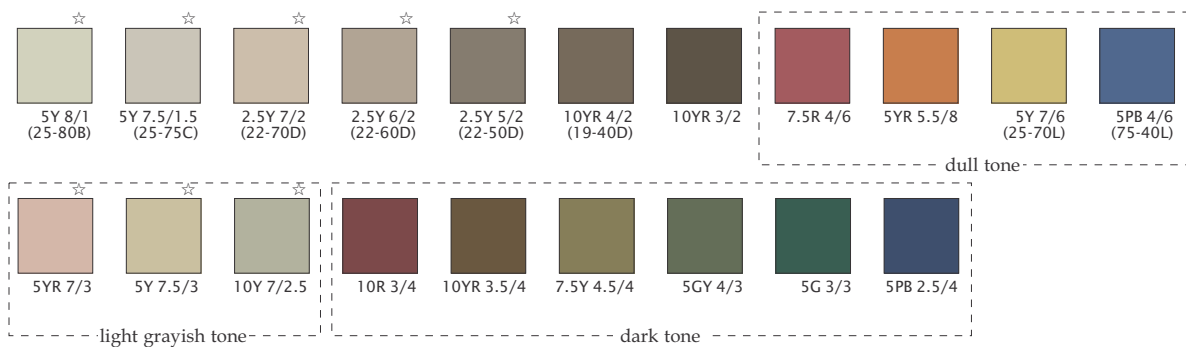


★印：勾配屋根の建築物のみに許容されるメインカラー

サブカラー (メインカラーもサブカラーとして用いることができます)



リブカラー



直径 400mm 以上の柱は☆印の色から選定

アクセントカラー (メインカラー・サブカラー・リブカラーもアクセントカラーとして用いることができます)

